

企業名： 住友化学

レポート名： 住友化学レポート 2022

1. この会社が目指している将来の姿が理解できるか

理解できる。住友化学ははじめに 3 つの方向性を示している。1 つ目にカーボンニュートラルの難問の解決である。住友化学は化学企業として、強みである技術力を最大限に利用し、先陣を切ってイノベーションを起こすことで、この問題の解決に貢献しようと考えている。2 つ目に健康の促進である。世界中の人が健康的な生活を送る手助けとなるような事業を展開するとともに、従業員が過ごす場所として、健康で活発に働ける職場を提供しようと考えている。3 つ目に生態系保全である。住友化学の事業が様々な自然の恩恵の上に成り立っていることを認識し、限りある自然を持続的に利用できるように、取り組みを進めている。

また、岩田圭一社長は、カーボンニュートラルの実現の中で、住友化学は時間軸と国際連携を意識していると述べている。2050 年の温室効果ガス(以下 GHG)の排出量ゼロを実現するだけでなく気温上昇を抑えるために、2030 年までに次世代技術が試作・実証段階まで進み、ある程度形になっていることが必要であると考え、時間軸を意識しつつ、GHG を排出しながら経済発展を進めてきた先進国と、これから経済発展を目指す新興国の利害対立の解消のため、先進国が持っているテクノロジーや今後開発する新しい技術を新興国に供与し、経済成長を支援していくなどの国際連携をすることを意識している。

2022-24 年度の新中期経営計画をみると、7 つの基本方針が示されており、事業ポートフォリオの高度化、財務体質の改善、次世代事業の創出加速、カーボンニュートラルへ向けた責務と貢献、デジタル革新による生産性向上と事業強化、持続的成長を支える人材の確保と育成・活用、コンプライアンスの徹底と安定・安全操業の継続を掲げている。全中期経営計画で実施した主にライフサイエンス分野での多くの投資を、最大限に引き出し、事業の収益力強化に取り組み、環境負荷低減に関する分野・高機能材料分野への投資も行う。また、顧客接点強化や顧客満足度向上に着目したデータドリブン経営による既存事業の競争力強化に取り組みなどの方針が示されている。

さらに、経営として取り組む重要課題を取り上げており、社会価値創出に関する重要課題と将来の価値創造に向けた重要課題に分け、それに向けた戦略・取り組みを示している。

以上より、このレポートには、住友化学が将来どのような会社を目指しているか理解するには十分な情報量があると、私は思う。

2. この会社の現在の競争優位性が理解できるか

理解できる。住友化学は事業内容を、エッセンシャルケミカルズ部門、エネルギー・機能材料部門、情報電子科学部門、健康・農業関連事業部門、医薬品部門の 5 つに分け、各部門

で自己分析を行っている。そのなかで、各部門の強みを示しており、その強みが競争優位性であると考えられる。エッセンシャルケミカルズ部門においては、日本・シンガポール・サウジアラビアの3拠点の特徴を生かしたグローバルな事業展開を行い、また、これまでアジア市場の優良顧客と培ってきた信頼関係があることが競争優位性だといえる。エネルギー・機能材料部門においては、世界最高水準の高耐熱性を持つリチウムイオン二次電池用セパレータなどにみられるように、多様化する顧客ニーズをとらえた製品ラインナップや研究開発能力、評価・製造・プロセス技術が競争優位性である。ほかの3部門についても、競争優位性が示されている。

以上より、住友化学の競争優位性は、部門ごとにSWOT分析を行って強みを示していることから容易に理解できる。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

理解できる。上記のように住友化学は各部門のSWOT分析を行っているが、分析の次のページからは今後の事業展開を示している。その事業展開の記述の中で、その優位性に持続性があるかどうか理解することができる。エッセンシャルケミカルズ部門においては、日本・シンガポール拠点を一体運営することで、MMA、ポリオレフィンの事業等の体制を見直し、進化させる、という展開が見通されていることから、海外拠点を生かしたグローバルな事業展開は持続されると理解できる。また、長きにわたり高付加価値品の開や高品質商品の安定供給を行い、顧客と非常に強い信頼関係を構築しているとの記述があることから、アジア市場における競争優位性は持続しそうであると理解できる。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

思う。レポート内での社員意識調査によると、4点以上が高い評価である中で、「今後も当社で働くことへの意欲」が4.1点、「デジタル技術を活用した自身の成長への意欲」は4.0点と、働き自身の能力を伸ばそうとする環境であることが分かる。そのような環境に身を置くことで、自身の価値は向上すると考えられる。また、「周囲に気兼ねなく帰宅できる」が4.1点であることから、自分の都合をある程度優先させることができるため、ストレスが軽減され、自分の能力を伸ばすことによりエネルギーを割くことができると感じたからである。

5. 報告書のよかった点はどこか、どのような改善余地があるか

報告書の良かった点は、図や表があることで情報が可視化され、情報の吸収がしやすかった点が挙げられる。また、重要な数字や情報が、太文字・色付きで表されていることで理解が進んだ。さらに、はじめに企業の理念や部門の紹介をし、だんだん詳しい事業の説明を記述することで、詳しい事業内容を理解しやすかった点が挙げられる。専門用語に説明がなされていたのもよかった。また、改善余地としては、重要課題がどの部門が主体的に行っている

くのがわかりづらく、起用全体として行っていくのかそれともある部門が中心的に行っていくのかわかりやすい記述があれば、住友化学が課題解決に向かっていく姿がより見えやすくなると感じた。